## 第60回 西東京市の銅像探索

筆者: 林 久治 (記載:2018年8月30日)

## (1) 前書き

私(筆者の林)は Random Walks (乱歩)という題名で偏屈老人(林久治)の気 **侭な紀行文**のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め 目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既 に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介 を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は<u>日本銅像探偵団</u> (1) のサイト) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン!」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではなく一般には全く知られていない人物」と言う意味である。最近、私は大阪近傍で、その候補となりそうな銅像を数体ネットで見つけている。

私は6月に大阪に滞在していたので、その間にそれらの銅像の幾つかを探索した。その探索記を57回の記事/f、58回の記事/f、および59回の記事/fで書いた。しかし、未探索の銅像や新たに発見した銅像が多く残されている。私は7月にも大阪に行ったが、その時期は猛暑のため銅像探索を行えなかった。9月にも大阪に行くので、その時に残りの銅像を探索する予定である。

一方、東京近傍の銅像は、1本銅像探偵団のサイトで殆ど探索尽されている印象であった。最近、私が住んでいる練馬区近傍の銅像をネット調査すると、上記のサイトに収録されていない銅像がゴロゴロ見つかって来たのは意外であった。しかし、東京でも8月中は猛暑で、銅像探索は出来なかった。所が、27日は秋雨前線が南下してきて、東京ではひどい豪雨が降った。練馬では、27日12時の気温が36.1℃であったが、20時には1時間で71ミリの雨が降り、気温は23.1℃に下がった。

28 日 9 時の温度は 24.8℃であったので、私は練馬近傍の銅像探索を敢行した。最近、私が練馬区の銅像をネット調査すると、西武新宿線武蔵関駅(練馬区)の隣にある東伏見駅(西東京市)前の早稲田大学東伏見キャンパスにある安部球場に、安部 磯雄先生(1865-1949)と飛田穂洲先生(1886-1965)の胸像が建立されていることを発見した。両先生の銅像は、**日本銅像探偵団**の「東京都新宿区早稲田の銅像」には収録されているが、西東京市の銅像は収録されていない。多分、両先生の銅像が東伏見キャンパスの奥深い場所に設置されているので、一般の方には目に付き難くかったのであろう。本稿では、東伏見駅周辺の探索記を記載する。なお、本稿においては、資料の記述を**緑文字**で、私(林)の意見や説明を**青文字**で記載する。

#### (2) 西武新宿線東伏見駅周辺

次ページの図1に、西武新宿線東伏見駅周辺の地図を示す。今回、私は初めて東 伏見駅を訪問した。地図上では、東伏見駅南口に早稲田大学東伏見キャンパスがあ ることを知っていた。いざ、駅南口に降り立ったに降り立つと、私は早大の他に特 筆すべき名所が2ケ所あることを発見した。その一つは、東伏見稲荷神社(駅名の 由来)で、もう一つは縄文遺跡(下野谷遺跡)であった(図1を参照)。



**図1. 西武新宿線東伏見駅周辺の地図** 本図は<u>2) のサイト/</u>より借用。 ①早稲田大学安部球場、②東伏見稲荷神社、③下野谷遺跡。

東伏見駅南口には、図2の写真のような鳥居が建っていた。駅前の案内板には、「東伏見稲荷神社まで820m」と書いてあったが、今回は他の銅像も探索するので、参拝は失礼した。なお、東伏見稲荷神社の詳細は、3)のサイト/aをご覧下さい。



図2. 東伏見稲荷神社の鳥居

東伏見駅南口の広場には、図3の写真のような縄文人物の銅像が建っていた。私は、当地にかくも大規模な縄文遺跡がありことを知らなかった。なお、本遺跡の詳細は4)のサイト/1をご覧下さい。5)のサイト/5によれば、本像のキャラクターの名前は、男児は「しーた」、女児は「のーや」、父親は「ぎん」、母親は「あん」である、そうである。本像が、日本銅像探偵団の収録基準に合致するかどうかは不明であるが、一応は登録して見ようと思っている。



図3. 東伏見駅南口の広場にある縄文人物の銅像 左から、父親の「ぎん」、男児の「しーた」、女児の「のーや」、母親の「あん」。

#### (3) 早稲田大学東伏見キャンパス

東伏見駅南口からは、早稲田大学東伏見キャンパスも見える。しかし、その表示はあまり目立たない。次ページの図4に東伏見キャンパス入口の写真を、図5に構内の地図を示す。本キャンパスには、人間科学部・スポーツ科学部の講義室の他に、下記のような素晴らしい運動施設が完備されている(6)のサイト/を参照)。

①安部球場:人工芝。夜間照明装置あり。〈使用面積 13650m2〉。②硬式野球投手練習場:ブルペン8人分。安部球場に併設。③室内練習場:全面人工芝。ブルペン3人分。ウエイトトレーニング室。④軟式野球場:人工芝。〈使用面積 11600m2〉。⑤アメリカンフットボール場:人工芝。夜間照明装置あり。〈使用面積 6704m2〉。⑥サッカー場:人工芝。夜間照明装置あり。〈使用面積 4860m2〉。⑥サッカー場:人工芝。夜間照明装置あり。〈使用面積 4860m2〉。⑧硬式テニスコート:人工芝コート4面(ハード)。⑨室内テニスコート:ハードコート2面。⑩馬場:馬場。〈使用面積 5000m2〉。⑪厩舎。⑫馬術部総合棟。⑬スポーツホール1階アリーナ:ハンドボール、バスケットボール等各種競技に利用可能。⑭

スポーツホール 地下1階号道場。⑮スポーツホール 地下1階相撲道場。⑯スポーツホール内射撃場。⑰トレーニングルー。⑱スポーツ医科学クリニック。⑲体育各部部員の寮。



図4. 早稲田大学東伏見キャンパスの入口

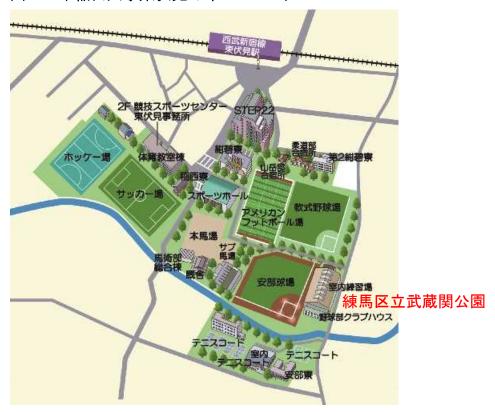


図5. 早稲田大学東伏見キャンパスの構内図 本図は<u>6) のサイト/</u>より借用。

## (4) 早稲田大学安部球場の銅像探索

私は8月28日の朝、早稲田大学東伏見キャンパスの安部球場に行き、安部 磯雄 先生と飛田穂洲先生の銅像を探索した。両先生の胸像は、安部球場のバックネット 裏にあるとの情報を得ていたが、東伏見キャンパスは広大で、なかなかバックネット 裏に到着できなかった。結局、私は練馬区立武蔵関公園まで行って、そこからバックネット裏に行くことが出来た。図6上が安部球場の看板で、図6下が練習を見ている両先生の胸像である。なお、安部球場の紹介は7)のサイト/Dが優れている。





図6.上:安部球場の看板、下左:練習を見ている両先生の胸像、下右:両像の背面に作者と製作日が記載されている。

両先生の胸像を正面から見た写真を図7上に、両先生のモットーを図7下に示す。 胸像の後ろに張られた緑のシートは工事現場のような印象を与えるが、ボールが飛 び出すのを防ぐために必要なのであろう。図6下右に見えるように、両像共に丸山 幸一(1949-)が2009年11月に製作した。丸山幸一の経歴は8)のサイト/Iを参照。





図7. 上:安部 磯雄先生(右:1865-1949) と飛田穂洲先生(左:1886-1965) の 胸像、下左:飛田先生のモットー、下中:安部先生のモットー、下右:台座の裏に 刻まれた両像の除幕日。

図8上左に安部 磯雄先生の胸像、図8上右に飛田穂洲先生の胸像、図8下に両先生の業績を刻んだ石碑示す。







図8.上左:安部 磯雄先生の胸像、上右:飛田穂洲先生の胸像、下:両先生の業績の碑文。

図8下に示すように、両先生の業績が碑文に彫られている。その文章を以下に記載する。

安部磯雄先生:明治三十四年に創設された早大野球部の初代部長 二十有四年に亘り同部の発達と崇高な運動精神の鼓舞に努められ 早大野球部のみならず広く日本スポーツ界の今日の隆盛をみるにその功績は大なるものであった 明治三十八年早大選手十二名を引率し米国に遠征 昭和五年東京六大学野球連盟会長就任 昭和二十二年日本学生野球協会会長就任 昭和二十四年二月逝去 享年八十四歳

飛田穂洲先生:本名は忠順 穂洲の号をもって広く世人に親しまれ大正九年初代早大野球部就任 水戸中学早大時代はもとより その一生を学生野球道ひとすじに生き抜かれ安部先生の薫陶によって日本学生野球のあるべき道を悟り 独特の健筆をふるって若い球児の啓発指導に努めた 昭和四十年一月逝去 享年七十八年

私(林)は「上記の碑文は、具体性を欠いて、両先生の業績をよく説明していない」と考える。ウィキペディアなどにより、私が調査した両先生の業績を以下に記載する。

安部磯雄先生 (1865. 3. 1-1949. 2. 10) は、日本の社会主義者。キリスト教的人道主義の立場から社会主義を活発に宣伝し、日本社会主義運動の先駆者であった。また、日本における野球の発展に貢献し「日本野球の父」と呼ばれる。 早稲田大学野球部創設者でもある。

安部先生(以後、安部と書く)は福岡藩士の次男として福岡市に生まれた。小学校を優秀な成績で卒業したが、明治維新後実家が貧しかったので上級学校には進まなかった。 1879年、義兄の援助で同志社英学校(現・同志社大学)に入学し、在学中に新島襄より洗礼を受け、1884年同志社英学校卒業。その後、ハートフォード神学校(アメリカ)やベルリン大学に学ぶ。1895年に帰国後、同志社教授を経て1899年東京専門学校(<u>早稲田大学</u>の前身)の講師となる(1907年から教授)。

社会主義協会は、安部を会長とし河上清、片山潜、堺利彦、幸徳秋水、木下尚江、西川 光二郎により 1900 年 1 月に結成された。本協会のメンバーは、1901 年 5 月に社会民主党 (日本最初の社会主義政党)を結成したが、結党 2 日後に結社禁止となったため、社会主 義協会の活動を強化することとなり、幸徳の平民社などとともに社会主義の紹介を行った。 安部は日露戦争では非戦論を唱えた。本協会は 1904 年 11 月、第 1 次桂内閣により結社禁止となった。

安部は1928年、第16回衆議院議員総選挙に社会民衆党から立候補し、衆議院議員当選連続5回。また東京市会議員も務めた。社会民衆党党首(1926-32)、社会大衆党執行委員長(1932-40)を歴任。1938年3月3日、右翼団体の指示を受けた愚連隊によって襲撃された(安部磯雄襲撃事件:安部は打撲裂傷で、全治2週間)。戦後は日本社会党の顧問を務めたが、1949年2月10日、83歳で死去。

安部は「知識は学習から、人格はスポーツから」形成されると考え、特に日本に伝えられて日の浅い野球の普及・発展に力を注いだ。1901年には早稲田大学野球部の初代部長に就き早慶戦の糸口をつくっただけでなく、日露戦争まっただ中の1905年には同部で野球史初の海外遠征を強行し、野球発祥国アメリカで行われている数多くの技術・練習法などを持ち帰った。安部らはこれを早稲田部内の秘伝とせず著書や指導などによって日本全国に伝えた。これによって日本の野球技術発展の基礎をもたらした。また嘉納治五郎らとともに大日本体育協会を創立した。安部はこうした数々の功績から「日本野球の父」と呼ばれる。没後の1959年、この年創設された日本野球殿堂入り(特別表彰)。

飛田穂洲先生(とびた・すいしゅう:1886.12.1-1965.1.26)は、茨城県出身の野球選手 (内野手)、学生野球指導者、野球評論家。本名は飛田 忠順(とびた ただより、とびた ち ゅうじゅん)。 日本の学生野球の発展に多大な貢献をしたことから、「学生野球の父」と呼ばれる。

飛田穂洲先生(以後、飛田と書く) の父親は、茨城県大場村初代村長でもある豪農であった。飛田は水戸中学校(現・水戸第一高等学校)で野球選手となり、卒業後の1907年に早稲田大学法学部に進学、野球部に入部する。野球部では二塁手としてプレー、5代目主将にも選ばれた。然し1910年、来日したシカゴ大学に大差で6戦全敗。この責任を取り引退、コーチ役となる。この頃、在学のまま報知新聞で記者を務めている。その後、飛田は読売新聞社に勤務するも、1919年から1925年まで早大学野球部の初代監督(専任コーチ)を務めた。収入減による生活難を承知で、また当時は社会的地位もないに等しい監督に自ら立候補したのは、シカゴ大への雪辱の思いが絶ち切り難かったからであると言われている。

監督としての飛田は厳しい練習を選手に課すなかで「早大野球部の黄金期」と呼ばれる一時代を築いた。1925年秋季東京六大学野球リーグ戦で優勝、19年ぶりに再開した<u>早慶</u> 戦に勝利し同年来日したシカゴ大にも勝ち越して雪辱を果たしたことから監督を勇退。安 部は1926年に朝日新聞社へ入社。以降は飛田 穂洲の筆名で中等学校野球(現在の高校野球)や大学野球の評論を行なうと共に、東京六大学野球連盟理事・公式記録員、早稲田大学野球部顧問として学生野球の普及・発展に尽力した。

一球入魂(いっきゅうにゅうこん)は、野球に取り組む姿勢を飛田が表した言葉である。 西洋伝来のスポーツであるベースボールを、飛田は日本発祥の<u>武道</u>に通じる「野球道」と 捉え、試合よりも練習に取り組む姿勢を重要視し、学生野球は教育の一環であると説いた。 「知識は学問から、人格はスポーツから」と説いていた早大野球部長安部の影響が大きい。飛 田の評論は日本の野球指導者・ジャーナリストたちの間で長い間教本として扱われた。そのた め、飛田は日本の精神野球の源ともいえ、「学生野球の父」と呼ばれる。1960 年、日本野球 殿堂入り(特別表彰)。

## (5) 私(林)の感想

安部 磯雄先生は、日本における社会主義活動を明治時代に始められた先覚者の一人であった。先生は日露戦争反対の運動を行い、日露戦争中には早大野球部を率いて米国に遠征するなど、時の政府に反抗的であった。そのような安部先生が政府から余り弾圧されず、早大教授や国会議員として活躍できたのは面白い。その理由を考えてみると、先生はキリスト教人道主義の立場から社会主義運動を行ったからであろう。当時の日本の共産主義者は全くコミンテルンの指揮下にあり、天皇制打倒を目的として、「宗教はアヘンである」との思想も持っていた。

そのような日本の共産党員は、時の政府に激しく弾圧され、刑務所の塀内に入れられたのである。一方、安部先生のようなキリスト教的社会主義者は、コミンテルンの思想には真っ向から反対していたので、体制内の「ガス抜き集団」として、刑務所の塀外に黙認されていたのであろう。

野球に関して、安部先生は自らプレーされた経験がないのではなかろうか。しかし、先生は米国留学中に野球の面白さを知り、日本青年の体力的および精神的鍛練に野球を導入されたのではなかろうか。先生が早大野球部部長に就任された頃には、もちろん日本にプロ野球は存在しておらず、大学野球が日本最高のレベルであったようだ。そのような時代に、安部先生は「日本野球のドン」として君臨していたのである。今日において日本野球がかくも隆盛している基礎を築いたのは、安部先生の先見の明であろう。従って、先生は「日本野球の父」と呼ばれている。

飛田穂洲先生は、安部先生より一世代遅く生まれ、少年時代から野球をプレーした日本で最初の世代に属する。飛田先生は、水戸中学で野球選手となり、早大野球部に入部して安部先生の指導を受けたのである。飛田先生は、名選手として、更に名監督としての評価が高く、安部先生の野球精神を見事に実践したことで有名である。飛田先生は、安部先生のように多方面で活躍されたのではなく、野球一筋の人生を送られた。

飛田先生は、早大の鬼監督として、日本の学生野球の原型を創られた。早大監督を勇退された後には、飛田先生は朝日新聞記者として、学生野球の報道や評論の分野で指導的な活動を行った。従って、先生は「学生野球の父」と呼ばれている。 9)のサイト/mによれば、水戸一高の校庭(旧水戸城中御門跡)に飛田穂洲先生の銅像が建立されているそうである。本像は、日本銅像探偵団の「銅像指名手配欄」に収録されているが、未だ投稿がないようである。一般人が校庭に立ち入って、撮影することが困難のようである。

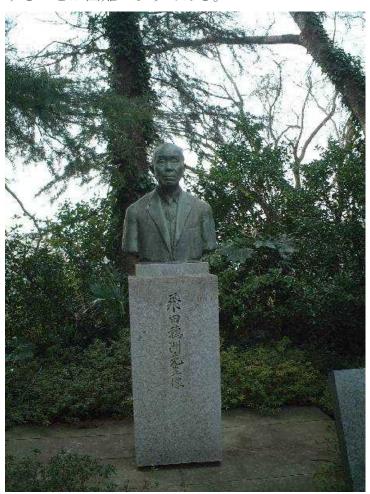


図9. 水戸一高の校庭(旧水 戸城中御門跡)にある飛田穂 洲先生像。

本写真は、9)のサイト/mより借用。私(林)の印象では、本像の方が、図8上右の飛田像より、先生の容貌を良く伝えているようだ。また、図8上左の安部像も出来栄えは芳しくなく、先生の特徴を少しも捉えていないようだ。

# 参考資料

1) のサイト: <a href="http://www.geocities.jp/douzouz/">http://www.geocities.jp/douzouz/</a>

2) のサイト: https://transit.yahoo.co.jp/station/top/22940/

3) のサイト: https://jinja.tokyolovers.jp/tokyo/nishitokyo/higashifushimiinarijinja

4) のサイト:

http://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/rekishi bunka/rekishi bunka2/sitanoyaiseki.html

- 5) のサイト: <a href="https://www.skylarktimes.com/?p=14415">https://www.skylarktimes.com/?p=14415</a>
- 6) のサイト: <a href="https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/facility/">https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/facility/</a>
- 7) のサイト:

 $\underline{https://blogs.yahoo.co.jp/sdfgh782001/40382606.html?\__ysp=5pep56iy55Sw5aSn5a2mIOW}\underline{uiemDqOeQg\%2BWgtA\%3D\%3D}$ 

- 8) のサイト: <a href="http://maru-modeling.com/profile.html">http://maru-modeling.com/profile.html</a>
- 9) のサイト: http://shiro.travel.coocan.jp/02kanto/mito/nakagomon/viewer.htm